

事 務 連 絡
平成 29 年 1 月 10 日

(一社) 日本移植学会
日本臨床腎移植学会
日本心臓移植研究会 } 御中

厚生労働省健康局難病対策課
移植医療対策推進室

心臓及び腎臓移植後患者への E 型肝炎ウイルスの感染例について（周知）

厚生労働行政の推進につきましては、日頃よりご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

肝臓移植後患者への移植時の輸血による E 型肝炎ウイルス（以下「HEV」という。）感染により、慢性肝炎を発症した例については、当室から、平成 27 年 11 月 16 日付け事務連絡「臓器移植時の輸血を原因とする E 型肝炎ウイルス感染への対応について（注意喚起）」によりお知らせしておりますが、今般、日本医療研究開発機構（AMED）肝炎等克服実用化研究事業（肝炎等克服緊急対策研究事業）研究班が行った全国調査の中間報告により、感染経路は不明であるものの、腎臓移植後患者及び心臓移植後患者において、HEV のウイルス陽性率又は IgG 抗体陽性率が一般人口におけるそれぞれの陽性率より高いことが確認されました。（詳細は別添）

前記事務連絡により、肝臓に限らず、これまで臓器を移植された者であって免疫抑制下状態にあるものにおいて、原因不明の肝機能低下が疑われた場合には、HEV 感染の可能性についても御考慮いただきますよう、会員等に対する周知につきまして御配慮をお願いしておりますが、今般の報告についても、併せて周知いただけますよう、よろしくお願いいたします。

筑波大学医学医療系 消化器外科・臓器移植外科学分野より以下の研究報告が厚生労働省 健康危機管理・災害対策室に報告された。

2016年12月12日にAMED肝炎等克服実用化研究事業（肝炎等克服緊急対策研究事業）「経口感染によるウイルス性肝炎（A型及びE型）の感染防止、病態解明、治療等に関する研究」の班会議が行われ、筑波大学医学医療系 消化器外科・臓器移植外科学分野の分担研究課題である、「わが国の心・腎移植患者におけるE型肝炎ウイルス感染の全国実態調査～全国スクリーニング中間報告～」を報告した。

研究報告内容については、以下のとおりである。

- ・ 心移植患者、腎移植患者のIgG抗体陽性率がそれぞれ、9.8%、4.3%ということ、腎移植患者のHEV-RNA陽性率が0.44%ということ。
- ・ 腎移植患者で現行感染が9例同定されたこと。そのうち3例が抗体検査では陰性であったこと。移植後E型肝炎の診断におけるHEV-RNA測定の重要性が示唆されること。
- ・ 3例でウイルス血症が6ヶ月以上持続し慢性化していること、3例の感染ルートは明らかではないこと。
- ・ 東日本が西日本よりも、IgG抗体陽性率が高かったこと。
- ・ 腎移植患者のHEV-RNA陽性率（0.44%）は一般人口（0.014%）より高率であったこと。腎移植患者のIgG抗体陽性率（4.3%）は一般人口（5.3%）よりやや低いこと。肝移植患者よりは両方ともやや高かったこと。
- ・ 腎移植患者では、不顕性のE型肝炎ウイルスの感染が潜伏している可能性があること。